



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」

聖書(創世記2章18)

牧師 河合裕志

神は人(アダム)を造ってエデンの園に住ませた。そこは豊かな緑に囲まれた楽園だった。けれどもアダムはそれで心を満たされることはなく物足りなかった。寂しい感じ。これを見た神は言った。「人が独りでいるのは良くない」。ぽつねんと独りぼっち。これじゃかわいそうだ。「彼に合う助ける者を造ろう」。「助ける者」(エゼル)、英語で言うパートナーといったところ。伴侶、配偶者。話し相手、協力者。こうした者がいれば孤独から救われる。

それで神はどうした? これがなかなかふるつて。アダムを深い眠りに落とし、そのあばら骨の一部を抜き取り、これで女を造り上げた。麻酔医、外科医のようにして。そして女をアダムのところに連れて来たところ、彼は思わず叫びを、喜びの声を上げた。「ついに、これこそわたしの骨の骨 わたしの肉の肉。これをこそ、女(イシャ)と呼ぼうまさに、男(イシュ)から取られたのだから」。

よく親子や兄弟のことを「骨肉」と言ったりする。切っても切れない深い結びつき。今男は女にそれを感じたのだろう。互いに強い引力を感じる。自分にはないものを求め合う、満たそうとする。互いに助ける者となる。苦楽を共にする者とな

る。「骨の骨、肉の肉」にはこんな思いがこもっている。

この叫びのあとにこう記されている。「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」。男が造られ女が造られる。それは「二人が一体となる」ため。そこに神の創造の意志の働いていたことが思われる。結婚しなさいよ、そして肉体的にも精神的にも一体となってハッピーに暮しなさいよ、ということ。イエスも後にこの記事をもって結婚の根拠とし、また離婚はしなさんなよと教えている(マルコ10・6以下)。

しかし今日様々な理由から結婚に至らない男女がおられる。離婚される方も見られる。こうした人々に私達はアタマごなしに、こうしなさい、そうしなさい、とは言えない。そこには人それぞれに深い事情があり人生観がある。その人の選択を尊重することが大切。

そのことを踏まえた上で、神の思いは二人が結ばれて幸せな家庭をつくることにあることは覚えておいてよいこと。そして全ての人にとってベストパートナーはキリストであることを覚えられたら幸い。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時